

2 研究の実際

研究の実際

ア 小学校通常学級（6年）の取組

知的障害特別支援学級に在籍する小学校6年生の児童に対して、交流学級の担任が、交流学級における学習活動で充実感や達成感を味わわせることができるように、合意的配慮を提供した事例である。

対象児童は、国語、算数、理科、社会の時間は特別支援学級で学習しているが、それ以外の教科等については交流学級で学習している。対象児童は学習意欲が高く、学習活動に積極的に取り組む姿が多く見られる。しかし、学級全体に対する説明だけでは、内容を正確に理解することが難しいため、学習活動に主体的に取り組むことができない場面が見られる。

そこで、対象児童が座席の配置や説明の仕方を工夫し、主体的に学習活動に参加することができるように学習内容や方法に配慮した。

P(決定)シート

意思の表明

本人	・ 交流学級において、学習内容が少しでも分かるようにしたい。
保護者	・ 交流学級において、学習内容が少しでも分かるようにしてほしい。
引継ぎ等	・ 対象児童は、前年度も外国語活動や道徳等を交流学級で学習していた。それらの授業では、学習内容を分かりたいという意欲が見られた。しかし、学習内容を正確に理解することが難しいため、友達から教えてもらう場面が多くあった。それによって対象児童は学習内容を理解していたが、一方で、友達から教えてもらうことに抵抗感を感じている様子も見られた。

調 整

実態把握

学習面	・ 特別支援学級で学習意欲が高く、学習活動に積極的に取り組む姿が多く見られる。 ・ 交流学級担任の学級全体への指示では、内容を理解することが難しいことがある。 ・ 長い文章は一つ一つ文字をたどりながら読んでいる。文章の内容を正確に理解することが難しい。 ・ 1年生程度の漢字の読み書きの学習をしている。書く活動に時間が掛かる。 ・ 対象児童にとって難しい活動には、自分から取り組むことをためらう様子がある。
生活面	・ 口頭のみでの指示を正確に理解することが難しい。 ・ 周りの様子を見ることで活動内容を理解することが多いため、活動への取り掛かりが遅い。
人との関わり	・ 友達とコミュニケーションを図りたいという気持ちは強い。 ・ 地域でも友達と関わり、一緒に遊ぶことが多い。
その他 (生育歴・検査等)	・ WISC-IVでは、非常に低い域である。

検 討

【時 期】 4 月当初 春季休業中の職員会議の後

【参加者】 特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 対象児童や保護者の願い、個別の教育支援計画等を基に、主に学習面に対する合理的配慮について検討した。

対象児童は、学習意欲が高く特別支援学級では積極的に学習に取り組んでいる。しかし、交流学級においては、抽象的な言葉を理解することが難しいため、対象児童にとって難しい活動には自分から取り組むことをためらう様子が見られる。また、漢字の読み書きや長い文章を読むことに苦手さを抱えている。そこで以下のような支援が必要だと考えた。

- ①教科書やプリントの全ての漢字には読み仮名を付け、分かりにくい単語は簡単な言葉に直す。
- ②交流学級担任が全体に対して指示を出した後に、対象児童が理解しているかどうか確かめる。
- ③交流学級担任の指示は、対象児童が分かる短い言葉で提示する。
- ④視覚的な資料を活用する。
- ⑤対象児童にとって話しやすい友達を近くの座席に配置する。

【準備した資料】

- ・前年度までの個別の教育支援計画及び個別の指導計画、検査結果

合意形成

【時 期】 6 月下旬 学校で保護者と面談

【参加者】 保護者、特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 検討した①～⑤の支援内容を保護者に提案した。

上記の合理的配慮の内容を 1 学期末に評価し、夏季休業中に見直しをする。

決 定

長期目標

- ・交流学級で主体的に学習活動に参加する。

①教育内容・教育方法 ・全ての漢字に読み仮名を付ける。 ・交流学級担任の指示は、対象児童が分かる短い言葉で提示する。 ・書く文の量を調節する。 ・分かりにくい語句には具体的な説明を加える。 ・視覚的な資料を活用する。 ・対象児童が話しやすい友達を近くの座席に配置する。	②支援体制 ・巡回相談を活用して、対象児童に必要な支援を考える。	③施設・設備
--	---	---------------

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

*** <合理的配慮：3観点11項目>**

*** 該当する項目に○を付けて下さい。**

①-1 教育内容

- () 学習上又は生活上の困難を改善・克服
() 学習内容の変更・調整

①-2 教育方法

- () 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
() 学習機会や体験の確保
() 心理面・健康面の配慮

② 支援体制

- () 専門性のある指導体制の整備
() 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解・啓発
() 災害時等の支援体制の整備

③ 施設・設備

- () 校内環境のバリアフリー化
() 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備
() 災害時等への対応に必要な施設・設備

次回の検討予定日（8月）

D(提供) - 1シート**長期目標**

- ・ 交流学級で主体的に学習活動に参加する。

決定した合理的配慮

- ・ 全ての漢字に読み仮名を付ける。
- ・ 交流学級担任の指示は、対象児童が分かる短い言葉で提示する。
- ・ 書く文の量を調節する。
- ・ 分かりにくい語句には具体的な説明を加える。
- ・ 視覚的な資料を活用する。
- ・ 対象児童が話しやすい友達を近くの座席に配置する。
- ・ 巡回相談を活用して、対象児童に必要な支援を考える。

実際の指導場面における合理的配慮の提供について**①教育内容・方法**

場面	対象児童の目標	手立て
学習面	・ 学習内容を理解する。	・ プリントや板書の漢字に読み仮名を付ける。 ・ 自分で読んだだけでは理解が難しいときは、交流学級担任が読み、説明を加えて理解を促す。 ・ 難しい言葉は対象児童が理解しやすい言葉に置き換えて提示する。
生活面 (給食)	・ 係活動に取り組む。	・ 係活動を特別支援学級担任と事前に確認する。 ・ 対象児童のスケジュール表に記す。
行事等 (修学旅行)	・ 友達と仲良くきまりを守って行動する。	・ 行動する班に対象児童が話しやすい友達を配置する。 ・ 特別支援学級で事前に日程や内容、きまりを詳しく学ぶ。 ・ 修学旅行のしおりの漢字に読み仮名を付ける。

②支援体制

項目	時期	内 容
職員研修	年度始め	・ 学年の始めに対象児童の特性や配慮すべきことについて特別支援学級担任が説明をし、全職員で共通理解を図る。
	夏季休業	・ 校外から講師を招き、合理的配慮や基礎的環境整備、インクルーシブ教育についての具体的な内容について理解する研修を行う。
巡回相談の活用	2 学期	・ 関係機関の巡回相談を行い、対象児童の実態把握と今後の学習の進め方等について理解を深める。

特別支援学級との連携	単元の前後 行事の前後	・ 交流学級担任と特別支援学級担任が支援の方向性や役割分担について話合う場を設定する。
------------	----------------	---

③施設・設備

項目	時期	内 容

D(提供)-2シート**合理的配慮の実際****1 合理的配慮の提供場面**

外国語活動「オリンピック&パラリンピック」(Hi! Friend2 lesson5「Lets go to Italy?」)

2 本時の目標

○いろいろな国の名前の英語表現や、文化に親しむ。

3 合理的配慮を取り入れた本時の授業について

本時の学習は、前時で学習した国旗を使ったゲームやリオオリンピック・パラリンピックを題材にしたクイズに答える活動を通して、国名の英語表現に慣れ親しんだり、各国の文化に触れたりすることをねらいとしている。

本学級の児童は、ほとんどの児童が外国語活動を楽しみにしており、ゲームやクイズなどの活動を通して、自然と英語表現に慣れ親しむことができている。一方で、個人や少人数で発音することを苦手としており、発音していなかったり声が小さかったりする児童も見られる。

対象児童は、交流学級で受ける授業において理解したいという気持ちが強く、意欲的に学習をしている様子が見られる。しかし、学習内容の理解については、黒板やプリントの漢字の読みや難解な言葉の理解が難しく、授業に対して受け身になることがある。外国語活動においては、ローマ字の習得が不完全であることから、学習内容の理解が難しいと思われる。

そこで、学級全体に説明をするときには、授業のユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、指示語やあいまいな言葉ではなく、簡潔で分かりやすい言葉を使って話すようにする。対象児童に対しては、座席を黒板や電子黒板を見やすい位置にしたり、プリントの漢字や英語表現などに読み仮名を付けたりする合理的配慮の提供を考えた。また、英語での発音が難しいときには、日本語の表現を用いたり、イラストや写真などを指し示したりすることで代替してもよいことにした。

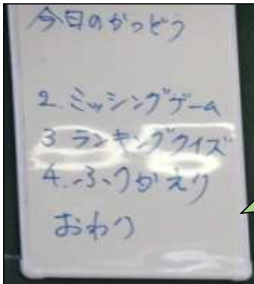
4 対象児童へ提供する主な合理的配慮

提供する合理的配慮
・対象児童の座席を、学習活動の理解について確認しやすい前の方にする。 ・漢字や英語表現に読み仮名を付け、難しい言葉は、分かりやすい表現に変える。 ・英語の発音が難しいときには、日本語の表現で答えたり、イラストや写真を指して答えたりしてもよいことにする。

5 授業の実際 (◎合理的配慮 ☆対象児童を含めた学級全体への配慮)

担任

対象児童

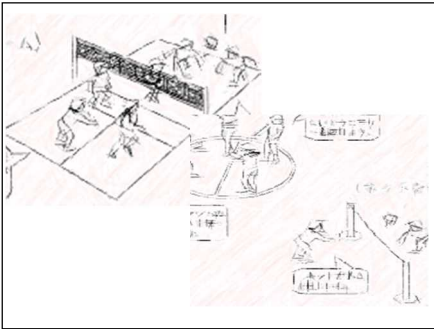
学習活動	教師の働き掛け	取組の様子
【授業前】	◎対象児童の座席を、学級担任が声を掛けやすく、電子黒板に近いところに決めておいた。 ◎座席は話しやすい友達の隣の座席にした。 ◎あいさつで言う「Let's start English!」「Thank you.」「See you.」を事前に確認し、練習しておいた。 ・前時までの学習内容のポイントを、ホワイトボードに提示した。	対象児童が話しやすい友達の隣の座席にすることで、安心して活動することができました。 特別支援学級で練習していたので、自信をもって言うことができました。
1 あいさつをし、今日のめあてを知る。	・「Let's start English!」と英語であいさつをすることで、これから英語活動の学習をするということを意識させた。 ☆学習の見通しがもてるように、1時間の学習の流れをホワイトボードに書き、黒板の左隅に掲示した。 	1時間の学習の流れを示したことで、見通しが立ち、安心して学習に取り組むことができました。
	めあて いろいろな国名を英語で言おう。	
2 前時の復習をする。	・電子黒板で国名と国旗の確認をし、前時の学習を思い出させた。 ◎自信をもって国名が言えるように、国旗と国名の書かれたプリントを渡し、国名の英語表現には読み仮名を付けておいた。 	プリントの国旗と黒板の国旗カードが同じなのはこれだ！「エーじプト」って言うんだ。 プリントを見ながら、電子黒板の国旗の画像と音声を確認し発音していました。
3 ミッシングゲームをする。	・黒板に貼った国旗を隠し、どこの国旗が隠されているのかを当てるゲームをさせ、国名の英語表現に親しませるようにした。	

	◎ゲームのヒントになるように、前時に学習したワークシートを渡しておいた。 ◎対象児童が持っているプリントと黒板に貼る国旗カードを同じ順番に並べておいた。	 黒板に提示する国旗とプリントの国旗の順番を同じにし、比較しやすいようにしました。 分かった！ 「エージプト」って書いてある。
4 「金メダルランキングゲーム」クイズをする。	・リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックがあったことを話題にした。 ☆想起しやすいように、リオオリンピック・パラリンピックの写真を提示した。 ・金メダルの数をもとに「金メダルランキングゲーム」をさせ、「What country?」の表現に慣れ親しませた。 ☆答えは前時で扱った国に限定した。 ☆国名を予想することは難しいため、ヒントを準備しておいた。 ◎国名を言うことが難しいときは、国旗を見せたり、国旗に読み仮名を付けたカードを読んだりして、発表できるようにしておいた。	 テレビで見たことがある写真を見付けて、子供たちは集中して見ていました。 Bさん「ブラジル」でいいよね。 「ブラジル」
5 本時の振り返りをする。	・振り返りカードを書かせた。 ◎振り返りカードは全ての漢字に読み仮名を付けた、分かりやすい言葉に変えたりしておいた。 ・今日の学習の振り返りを発表させ、皆で称賛し、次時への意欲を高めるようにした。	振り返りカードを使ったため、取り掛かりが早く、集中して書くことができました。
6 あいさつをする。	・「Thank you.」「See you.」と言い、英語活動を終えた。	たくさん練習したから、もう覚えているよ。

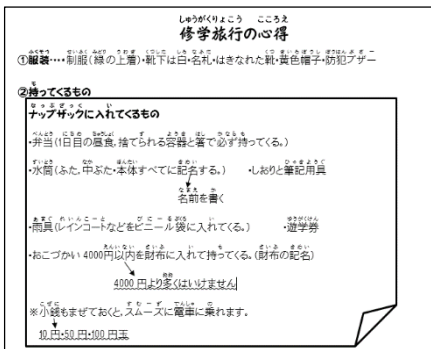
D(提供)-3シート

合理的配慮の具体例

場 面	学習面	インターネットでの検索
合理的配慮の内容 ・ 調べたい事柄を聞き、交流学級担任が対象児童に分かる言葉に変えて、その言葉を入力させる。 ・ 日本語入力で検索させる。 ・ 難しい内容は担任と一緒に読む。		
 【日本語入力で検索】		インターネットで検索をするときに、調べたい事柄を言葉にしたり、ローマ字入力をしたりするのが対象児童にとって難しいときがある。 そこで、担任が調べたい内容を聞き、簡単な言葉に替えたり、かな入力で検索できるようにしたりした。検索した後の文章を読むことが難しかったため、担任や友達と一緒に読むようにもした。 対象児童は自分で調べたい内容を検索することができたことや、調べて分かったことに満足していた。

場 面	学習面	ソフトバレーボールの授業
合理的配慮の内容 ・ 個別にイラストを使って、ルールの説明をする。 ・ 対象児童にとって話しやすい友達を同じ班にする。		
 【ソフトバレーボールの説明図】		対象児童は、ソフトバレーボールのルールの理解が難しい様子が見られた。 そこで、ゲームのルールについてイラストを使い、対象児童にとって分かりやすい言葉で説明した。また、班編成に配慮し、ルールが分からないときに友達に教えてもらいやすいようにした。 その結果、ルールを理解することができ、同じ班の友達とゲームを楽しむ姿が見られた。また、同じ班の友達が動き方を教えたり、励ましの声を掛けたりしている様子も見られた。

場 面	学習面	合唱やリコーダーの合奏
合理的配慮の内容 - 教科書に読み仮名や階名を付ける。 - リコーダーの指使いがしやすい部分だけを演奏する。		
 【リコーダーで演奏する部分を示した楽譜】		漢字が読めないことで歌詞が分からず、歌えないことがあったため、読み仮名を付けた。そのことで、大きな声で元よく歌を歌うことができるようになった。 また、6 学年教科書の楽譜では、リコーダーの演奏が難しかった。そこで、吹く音を限定して演奏するようにした。練習の量を調節したことで「がんばれば、できそうだ」と意欲的に練習し、特別支援学級でも練習を重ねた。その結果、交流学級での合奏にも参加することができた。

場 面	行事等	修学旅行での取組
合理的配慮の内容 - 対象児童が話しやすい友達を同じ班に配置する。 - 修学旅行のしおりの漢字に読み仮名を付ける。		
 【読み仮名と言葉の説明入りの修学旅行のしおり】		修学旅行の班は、対象児童が話しやすい友達と一緒にできるよう配慮した。また、修学旅行のしおりの漢字には読み仮名を付け、対象児童が自分で見通しをもてるようにした。 その結果、交流学級における事前学習の話し合い活動では、班の友達に自分の考えを伝えることができた。また、当日は、しおりを見ながら計画通りに活動することができた。

C(見直し)シート

見直し

検 討

【時 期】 8月

【参加者】 特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 1学期に提供した対象児童への合理的配慮について振り返り、2学期の交流学級における支援内容等について話し合った。

成果と課題

- 教科書やプリントの全ての漢字に読み仮名を付けたり、分かりにくい単語は簡単な言葉に直したりしたことで、対象児童は、学習内容を理解することができた。
- 対象児童が話しやすい友達を近くの座席にしたことで、対象児童は、分からないところを友達に教えてもらいながら積極的に学習に参加することができた。
- 対象児童にとって、交流学級担任の説明が抽象的であったり、思考を多く伴う学習内容であったりすると、最後まで集中して学習に取り組むことが難しい様子が見られた。そのため、教師の説明の仕方や学習形態を工夫する必要がある。

合理的配慮の変更点

- これまでの合理的配慮は今後も継続する。以下の点について見直した。
- ・交流学級で最後まで集中して取り組むことができるように、学習内容や学習形態の組立てを工夫する。

合意形成

【時 期】 8月 個人懇談

【参加者】 保護者、特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 検討した成果と課題、変更した合理的配慮について提案した。

今後も定期的に評価、見直しを行う。年度末は中学校進学へ向けて移行支援会議を開催し、引継ぎを行う。

A(引継ぎ)シート

引継ぎ

【時 期】 3月末

【参加者】 中学校(特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任)、小学校(特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、交流学級担任)、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー

【方 法】 進学先の中学校で、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、下記の内容について移行支援会議を開く。

【内 容】 ・全ての漢字に読み仮名を付ける。
・交流学級担任の指示は、対象児童が分かる短い言葉で提示する。
・書く文の量を調節する。
・分かりにくい語句には、具体的な説明を加える。
・視覚的な資料を活用する。
・対象児童が話しやすい友達を近くの座席に配置する。
・巡回相談を活用して、対象児童に必要な支援を考える。
・交流学級で最後まで集中して取り組むことができる学習内容や学習形態の組立てを工夫する。

成果と課題

成 果

○特別支援学級担任と連携した合理的配慮の提供

特別支援学級担任とともに対象児童の実態を把握した上で、交流学級における合理的配慮の内容を検討した。また、家庭訪問や個人懇談も特別支援学級担任と一緒に実施したことで、共通理解を図ることができた。

実践授業では、事前に特別支援学級担任と話し合いをし、対象児童が特別支援学級で英語表現を練習するようにした。その結果、交流学級の友達と一緒に英語で挨拶をしたり、英語クイズで発表したりする等、積極的に参加することができた。

○交流学級の授業に主体的に参加できるような合理的配慮の提供

対象児童にとって、交流学級全体に対する説明だけでは、内容を正確に理解することが難しいため、学習活動に主体的に取り組むことができない様子が見られた。そこで、対象児童にとって分かりやすい言葉で説明したり、漢字やローマ字に読み仮名を付けたりした。その結果、対象児童は学習内容を理解し、学習活動に参加できていた。また、対象児童にとって話しやすい友達を近くの座席に配置したことで、友達と関わり合いながら積極的に学習活動に参加することができた。

課 題

○対象児童にとって、交流学級担任の説明が抽象的であったり、思考を多く伴う学習内容であったりすると、最後まで集中して学習に取り組むことが難しい様子が見られた。そのため、教師の説明の仕方や学習形態を工夫する必要がある。そこで、対象児童にとってイメージしやすい言葉を用いて話したり、書く活動、読む活動等の様々な活動を学習内容に取り入れたりする等の教師の説明の仕方や学習形態の工夫が必要である。

○一貫した支援の提供が実現できるように、進学先の中学校へ支援内容を引き継ぐことが大切である。そこで、小中学校間の連携を密にする必要があると考える。しかし、中学校と連絡を取り合う時間を確保することや具体的な支援内容を引き継ぐためにスクールカウンセラー等を活用することが課題である。

平成28年度 個別の教育支援計画

記入者名： ○○ ○○ 記入日：平成28年5月○○日

学校名	○○小学校○○学級 (6年 ○組)		校長名	○○ ○○	担任名	○○ ○○
ふりがな氏名	○○ ○○		生年月日	平成○年○月○日		
保護者名	○○ ○○		家族構成	○ ○ ○ ○		
住所	○○市 ○○町 ○○○○ ○○-○○					
現在の生活、将来の生活についての願い						
本人の願い	・働く人になりたい。 ・ピザ屋さんになりたい。		保護者の願い	・将来は仕事ができるようになってほしい。		
本人の状況(学習面、集団参加、社会性、対人関係、コミュニケーション、他)						
学校	・学習には意欲的に取り組む。分かる喜びを感じている一方で友達と比べてできないことを気にすることもある。 ・状況や相手に流されたり、よく考えなかったりして不適切な行動をすることがある。					
家庭	・近所の下級生との過ごし方で適切ではない行動が見られる。					
地域・関係機関						
支援の目標	・学習面、生活面において将来の自立した生活を意識できるように指導する。 ・その場に応じた言動について学ぶ機会を設ける。					
主な支援内容					支援者	
学校	学級	・様々なことが働く人になるためにつながっていることを伝える。 ・正しいことかどうかの判断を学ぶ機会を設定する。				担任
	校内	・<u>できたことやがんばったことを認め、自信をもたせる。</u> ・不適切な行動への対応について、職員間で共通理解を図る。				交流学級担任 他職員
家庭	・宿題と翌日の準備をすることの習慣を付ける。 ・家庭での過ごし方について連携を図る。				家族	
地域						
関係機関 (医療、福祉、 特別支援学校等)						
評価及び 引継ぎ事項						

【合理的配慮シート】

〇〇小学校 6 年 〇組 氏名 〇〇 〇〇

長 期 目 標

- ・ 交流学級で主体的に学習活動に参加する。

提供する合理的配慮	評価
・ 全ての漢字に読み仮名を付ける。	継続
・ 交流学級担任の指示は、対象児童が分かる短い言葉で提示する。	継続
・ 書く文の量を調節する。	継続
・ 分かりにくい語句には具体的な説明を加える。	継続
・ 視覚的な資料を活用する。	継続
・ 対象児童が話しやすい友達を近くの座席に配置する。	継続
・ 巡回相談を活用して、対象児童に必要な支援を考える。	継続
・ 交流学級で最後まで集中して取り組むことができる学習内容や学習形態の組立てを工夫する。	追加

【提供する合理的配慮を決定した日】

H28 年 6 月 〇 日 児童生徒名 〇〇 〇〇 保護者名 〇〇 〇〇

担任名 〇〇 〇〇 学校長名 〇〇 〇〇

次回の検討予定日 H28 年 8 月 〇日

平成28年度 個別の指導計画 (実態把握シート)

記入者名：〇〇 〇〇 記入日：平成28年 5 月〇日

(ふりがな) 氏 名	〇〇 〇〇	性 別	〇	校長名	〇〇 〇〇
		学 級	〇〇学級 (6年〇組)	担任名	〇〇 〇〇
生育歴：医療機関等からの情報（診断等）を含む		家 族 構 成			
・小学校〇年生から知的障害特別支援学級に入級		〇〇 〇〇 〇〇 〇〇			
諸 検 査 の 結 果					
・WISC-IV 全検査IQ〇〇(非常に低い)					
共通理解を図りたいことや 主な問題点		・友達と比べてできないことを感じて自己肯定感が下がっているような発言がある。<u>繊細な面がある。様々な場面で自信をもたせたい。</u> ・場や友達の発言に流されることがある。考えて判断できるようにしたい。 ・生活経験から学んでいることが多い。就労に直結した学習内容は理解しやすく意欲も高い。			
		児童生徒の状況		現在の対応	
各教科等 授業 宿題 他		・学習課題、作業的課題は集中して取り組む。 ・友達の学習内容を意識することがある。 ・宿題忘れは少なくなったが確実ではない。		・課題の内容を検討したり量を調整したりして分かる喜びを感じさせる。 ・できていることを感じさせ自信をもたせる。 ・家庭と連携を図る。	
集団参加 社会性 休み時間 給食時間 集団活動 他		・身だしなみを整えることが難しい。 ・学習用具を準備することが難しい。 ・状況や相手に流されたり、よく考えなかったりして不適切な行動をすることがある。		・友達の動きを見たり会話を聞いたりして自発的な行動を促す。 ・生活チェック表を毎日記入させる。 ・不適切な行動はその都度、状況等を一緒に考え適切な行動を示す。	
対人関係 コミュニケーション		・社交的で誰にでも明るく接する。 ・友達の言動の善悪を判断できずに一緒に行動することがある。		・友達との適切な関わり方を伝える。 ・6年生としての適切な言動を機会あるごとに伝える。	
興味・ 関心の あること		・動物の世話をすること。 ・音楽を聴くこと。	苦手な こと	・友達に強い口調で言われること。 ・勉強が分かるようになってほしい。	
本人の 願い		・早く働く人になって家族を楽にさせてあげたい。 ・将来はピザ屋か保育士になりたい。	保護者の 願い	・将来は仕事ができるようになってほしい。	
支援にあたる者 (支援チーム)		特別支援学級担任、交流学級担任、特別支援教育コーディネーター			